

第一種情報処理技術者試験

(Senior Programmer Examination)

(昭和 45 年～平成 6 年春期)

1. 趣旨

昭和 44 年度に発足した情報処理技術者認定試験は、昭和 45 年度から「情報処理振興事業協会等に関する法律」(昭和 61 年から「情報処理の促進に関する法律」に名称変更)に基づく情報処理技術者試験として行われることとなった。

2. 対象及び水準

プログラムの設計、高度のプログラムの作成及び第 2 種情報処理技術者の指導に主として従事する者を対象とし、大学卒業程度の一般常識を有し、3 年程度以上のプログラミング経験を有するシニアプログラマーを想定して試験を行う。(シニアプログラマー対象)

3. 試験科目

- (1) ソフトウェアの知識
- (2) プログラムの作成能力
- (3) プログラムの設計能力
- (4) ハードウェアの知識
- (5) 関連知識

4. 試験時間、試験方法

- (1) 午前 150 分(9:30～12:00): 多肢選択式
- (2) 午後 150 分(13:00～15:30): 記述式

5. プログラム言語

昭和 45 年から昭和 51 年までは、FORTRAN、ALGOL、COBOL、PL/I、アセンブラ言語のうちから一言語を選択
昭和 52 年からは、アセンブラ言語は必須とし、FORTRAN、COBOL、PL/I のうちから一言語を選択
平成 5 年度春期から C 言語を選択に追加

6. 受験資格

特に制限はなし

7. 応募者、受験者、合格者

- (1) 応募者数累計: 1,096,483 名
- (2) 受験者数累計: 669,911 名
- (3) 合格者数累計: 91,372 名(合格率: 13.6%)